

札幌市勤務医協議会ニュース

発行 札幌市勤務医協議会
札幌市中央区大通西 19 丁目
札幌市医師会館内

巻 頭 言

With コロナ・After コロナ

副会長 鶴間 哲弘

2019 年暮れ武漢から発症し、瞬く間に全世界に感染爆発となった COVID-19 は、これまでの社会通念を変えてしまいました。“ソーシャルディスタンス”、“三密回避”という言葉が一般化され、職場での歓送迎会などの密になるような飲み会は無くなり、“飲みにケーション”という言葉も、今となってはすっかり死語となってしまいました。仕事終了後はまっすぐ帰宅し自宅で過ごす時間が多くなり、仕事スタイル、人生スタイルも大きく変化しています。非常事態宣言解除後、少しずつではありますが、地域を超える移動も始まり、経済活動も再開し始めましたが、まだまだ以前とは程遠い状況です。COVID-19 ワクチン開発も各国で開始されていますが実用化には時間がかかりそうですし、以前と同様な社会活動に戻ることは困難と思われます。これからは、COVID-19 とともに生きる新たな生活様式・社会様式が求められ、“with コロナ”、“after コロナ”という言葉聞くことが多くなってきました。

医療界においても、COVID-19 は多くの影響、変化を及ぼしています。病院での感染を恐れ、受診する患者が激減しています。以前は、診療開始前早朝から待合室には多くの患者さんが集まり、ある意味、患者さん同士の交流の場となっていました。今や、診察が終わると慌てて病院を去っていきます。救急車の要請件数も減少しています。と、考えると、本当に医療が必要な患者数が現状であり、いかに以前は不必要な受診（コンビニ受診）、救急車要請が多かったのかという事になるのかもしれませんが。しかしながら、感染対策の観点からの内視鏡検査数や健診などの減少は、今後数年先には大きな影響を及ぼしてくると思われます。つまり、消化管内視鏡検査や健診の減少により、従来まで発見されていた早期癌が見逃され、今後、大腸癌

イレウスなど進行癌患者の増加が危惧されます。

COVID-19 感染の猛威は全国的にはピークダウンしてきている状況ではありますが、20~30 代を中心とした夜の感染が多い関東圏、元気な高齢者による昼カラ・クラスター発生が多い北海道などでは、まだまだ安心できる状況ではありません。また、COVID-19 の次なる波、第 2 波（北海道では第 3 波）、第 3 波…は今後も訪れますので、感染対策の維持継続は必須と思われます。病院においても、院内感染対策は強化されている事と思います。病院入口での来院者に対する発熱検査、発熱患者の個室対応・ゾーニング、自施設での PCR 検査機器の導入、医療者の PPE（個人用防護具）の徹底など、各施設によって程度の違いはあれ、感染対策の強化は今後も続けていかざるを得ません。病院内からのクラスター感染発生を防ぎつつの、通常医療継続は、医療従事者のストレスを増加させています。また、医療コスト増加にも直結し、病院経営を逼迫させる一要因ともなっています。

現状での COVID-19 感染診断手段としては、PCR 検査、抗原検査、抗体検査ですが、その精度も決して満足すべきものではありません。PCR 検査にて陰性と診断した発熱入院患者を個室から大部屋に移動させた後に、その患者からの院内クラスター感染が発生したという、PCR 偽陰性による感染報告もありました。より精度の高い診断キット、治療薬、ワクチンの開発・実用化が待たれますが、まだ時間がかかりそうです。今後も感染拡大の危険を常に念頭に置き感染対策を死守しながら、通常診療を続けなければいけません。医療界での with コロナ・after コロナは、感染と闘いながらの診療となると思われます。感染対策・感染対応、それに伴うハード・ソフトの整備などが必須であり、安心した社会生活の発展のためにも医療界への国からの支援拡充が望まれます。

(J R 札幌病院)

所 感

コロナ禍に思う事

幹事 志田 勇人

この度のコロナ禍ですが、札幌市勤務医協議会会員の皆様におかれましては第2波、3波に戦々恐々としながら新しい生活様式を実践されていることと思います。徐々にですが新しい生活様式にも慣れてきたかとは思いますが、全国に先駆けて自粛を行った我々道民は2月からの自粛疲れもまだ癒えない状態にあるのではないのでしょうか。そんななか街には色とりどりの花や植物が咲きほこり札幌の街を活気づかせています。以前、何かの記事で読んだのですが人の興味の移り変わりは年齢を重ねるごとに動物から植物に移り、さらに齢を重ねると鉱物(渋い!)に移っていくそうです。かく言う私は今まで鉱物はもちろんですが、植物にも全く興味がありませんでした。しかし最近、職場のデスク周りが寂しいなぁと感じるようになり何気なく観葉植物を購入して部屋に置くようになってから少しずつですが植物に対して愛着を抱くようになってきました。街中の花や植物にもふと目を向けることが多くなり、もう枯れてしまいましたが私が勤務する病院の最寄り駅から歩いてすぐのところにライラック街道と言ってもよいくらいにライラックが咲く場所があります。今まではそこに花が咲いているということすら気にしたことがありませんでしたが、今年は通勤時にビル風でほのかに香るライラックの存在に気づかされ、そのさわやかなライラックの香のおかげでコロナ自粛の疲れも少しですが癒された気がします。普段は気づかないようなことでもこのコロナ自粛の影響なのか？感受性の変化なのか？ほんとに何気ない事ではあるのですが、そのような日常のささいな変化を今後も日々、大切にしていきたいと思う今日この頃であります。

最後にこのコロナ禍に対して気になる記事を見つけましたのでご紹介したいと思います。今年4月に亡くなった作家であり、環境保護活動家でもあるC.W ニコルさんの記事ですが、亡くなる直前の新聞への連載で以下のような事を掲載しておりました。

“中国の市場で希少な外来の野生動物が食用あるいはペットとして売られているのは、見るに堪えない光景だ。無造作に積み上げられた檻の中に、貴重な生き物がいる。汚いまな板の上で切り刻まれていく様子には、そこに関わる人々への敬意など消えうせてしまう。自然は、私たち人間が地球を傷つけ、共に生きる他の生命を虐げていることに多くの警告を発している。新型コロナウイルスは、今後、我々を襲うであろう災厄の先駆けにすぎない・・・”

まさしくこの記事を読んだ時に今回のコロナ禍は自然からの人類に対する警告というのはあながち大げさとも言えないのではと感じました。

今まさに世界は自然破壊、人種差別、保護主義の台頭と格差社会の進行などこのコロナ禍でさらに浮き彫りになってきた問題が乱立し混沌とした状態にあります。今回のコロナ禍が我々人類に対するサインと捉え、いま一度立ち止まって考える必要があるのでは？・・・と窓際の観葉植物と外の梅雨空を眺めながら憂える平日の午後でありました。

(札幌ライラック病院)



ご 連 絡

例年開催しております『札幌市勤務医協議会・札幌市病院協議会合同ゴルフ大会』につきましては、今般の新型コロナウイルス感染拡大防止と皆様の健康・安全を考慮いたしまして、今年度は中止とさせて頂きました。

また、『札幌市勤務医協議会定時総会・記念講演会』につきましては、北海道大学大学院農学研究院微生物生理学研究室 横田 篤教授に記念講演をお願いしておりましたが、止む無く開催を延期しております。日程が決まりましたらご案内いたしますので、よろしく願いいたします。